

説苑

1 日ソ交渉後話

あれほど自民党内ではもちろん、国をあげてもみにもんだ日ソ交渉も、鳩山首相の悲願とも執念とも思われるほどの一徹な精神に抗しきれず、首相の訪ソによる調印の段階を踏みこえて、批准の局面を迎えるに至った。思いつめ、張りきった弦が、首相の訪ソ決定によつて半ばゆるみかけたかともえたが、批准という事実によつて正に断たれようとしている。この日ソ共同宣言は社会党の同調を得ているので、与党内に青票組が若干出ても、この批准はほとんど決定的とみられている。

してみれば今日、日ソ交渉を回顧し吟味することは「後の祭」だといえる。さらにはまた鳩山首相がモスクワで、日ソ共同宣言に調印した十月十九日には、ポーランドの首都ワルシャワにお

いて反ソ暴動が起り、次いでハンガリアの反革命闘争がげしく展開された。このようなソ連の衛星国が自由化と民主化を求めてソ連から遠心分離の方向に傾いているのに、日本が逆に親ソの方向に重い歩みを進めているということは一見奇怪なことでもある。こんなことでは、何も急いで日ソの復交をあの際ああいっう格好でやり遂げなくともよかつたのではないか。もう少し時期の熟するのを待てばよかつたのではないかという愚痴も出てくる。しかしこれも「後の祭」だ。

しからばすべて「後の祭」となつたことを、いまさらかれこれ詮議してみても仕方がないではないかという諦観も湧いてくる。そして政界の目は次の総裁選挙に集中し、日ソ交渉は忘れてしまつたかのような表情さえ見られる今日この頃である。しかし私は、日ソ交渉の回顧談も決して無意味とは思わない。

あれほど国をあげてもみにもんだこと自体、決して無意味ではなかつた。無意味でなかつたばかりか、大いに意味があつたと思う。それは国内における反対ないし慎重の気流が、対ソ外交における無言の支援になつたんだという俗論めいたやせ我慢からいふのではない。また米国はじめ自由国家群の手前もあつて、国内に強い反対とか批判とかがあつた方がよかつたのだとかいう意味で、そのメリットを強弁しようとするものでもない。そんなことでは、今度の日ソ交渉をめぐる論議も「後の祭」どころか「計画的に仕組んだ祭典」になつてしまふ。

私はまず今度の日ソ交渉をめぐる論議を通じて、ソ連に対し比較的無知な日本国民の対ソ認識を深めることに、大いに役立つことを力説したい。それだけでなくも外国に甘い国民である。特にソ連に対しては必要以上に、ある意味において宗教的な狂信をもっている一部の人々によって、ソ連の実体がゆがめられて伝えられている嫌いがある。そういう国民に対して、こんどの論議は啓蒙的な効果を十分とはいえないまでも、相当程度もたらしたことは否めない。そしてこの認識が、日ソ復交の後においても両国の外交や通商に手放しの甘さに代えて、慎重さを加味していくにちがいないからである。つまり、国民のソ連に対する外交的認識と批判力を培養するに寄与したことは、十分評価できることである。

次に自由国家群と日本との関係に対する再認識である。終戦後の日本は、外交はもとより通商や文化の交流において自由国家群に偏向しがちであったことは、已むをえないことであった。事実、自由国家群は、日本の防衛や経済に対して大きい影響力をもっている。しかし、自由国家群の影響力というものをわれわれは十分知っておるかという点、事実はそうでもない。ところが今度はソ連という対立物を鏡として、世界を見直すことができるようになった。それはたしかに、今度の日ソ交渉とその論議の大切な副産物であったといつて過言ではあるまい。このことは、日本の外交的基調である自由国家群との協力関係の推進に、ある意味の深さを増したともいえよう。

さらにもつということができるとすれば、この論議を通じて日本国民の外交的眼力が肥え、世界の事象の動きに対する興味と批判力が増えたことも見逃せないことであろう。私はもともと鳩山首相の一徹な悲願にある程度同情しつつも、今度の日ソ交渉全体の運び方やタイミングの選び方に軽率さがなかったとは思えないし、いわゆる日ソ国交調整に対しては、思想的にも行動的にも慎重派の系列に連なる者と自認している。しかし同時に、今度の交渉に対する現在の批判や吟味が「後の祭り」であつて、何にもならない等という安直な諦観論者には与しないものである。

歴史における時間の構造は、田辺博士の明快な分析を待つまでもなく、直線的なものではない。それは前進しようとして未来を指向する力と、過去を回顧し現状を保守しようとする力との均衡の無限持続。それには前進もあれば後退もあり、左右に振動する幅をもつた運動も見られるであろうが、でありとすれば、今度の日ソ交渉を契機とする歴史の展開もまた、そのような構造的展開方式をとることであろうと思う。その展開方式に作用する力の一つは、激しく闘わされた日ソ交渉論議であつたといえよう。